

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事業名 事後検証票データベース更新費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防課 消防係 電話番号：058-272-1111(内2882)

E-mail：c11193@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 900 千円 (前年度予算額： 900 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	900	0	0	0	0	0	0	0	900
要求額	900	0	0	0	0	0	0	0	900
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「岐阜県救急隊 (消防隊) 活動プロトコール」の改正に伴い、事後検証データベースについても項目の変更及び項目の追加が必要である。

(2) 事業内容

医学的観点からの救急活動の事後検証体制の整備を図ることを目的として、平成21年から事後検証票データベースを運用しており、令和2年度から医療整備課が整備した、ぎふ救急ネット内に移行した。

データベース化によって、事後検証の集計分析とフィードバックを可能とするなど、救急活動の質の向上を図っている。

(3) 県負担・補助率の考え方

県民の救命率向上のため、メディカルコントロール下で常時指示体制、事後検証体制、再教育体制、リスク管理体制の構築を前提に、救急救命士の処置範囲が順次拡大されており、県がその費用を負担する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	900	事後検証データベースのシステム改修
合計	900	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

他県においても、メディカルコントロール協議会において、プロトコルの策定、医師の指示・指導・助言体制、事後検証体制、再教育体制等の充実強化を図っている。

(2) 事業主体及びその妥当性

県民にとって最善の結果をもたらすためには、県全体の救急活動の質を向上させる必要がある。このため、県において事後検証を実施し、その結果を用いて救急隊員の再教育や事例研究、症例研究等を実施する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

救急現場から医療機関に傷病者が搬送されるまでの救急隊の活動を、医学的観点から事後検証を行い、その結果をフィードバックするとともに、データベース化して分析し、救急救命士をはじめとする救急隊員や通信指令員に対する教育に反映させることにより、救急活動の高度化を図り救命率の向上へと繋げていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性の心肺停止症例の1ヶ月後生存率					14%	
②一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性の心肺停止症例の1ヶ月後社会復帰率					11%	

○指標を設定することができない場合の理由

R3年度の実績については、総務省消防庁より数値が示されていないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	事後検証データベースの改修を行うとともに、ぎふ救急ネットへの移行に必要な事業を実施した。
	指標① 目標：___ 実績：11% 達成率：78 %
令和3年度	事後検証データベースの不具合及び必要な改修を実施した。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

令和
4
年度

令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 3	救急活動の質を向上させるためには、医学的観点から活動の事後検証を行いデータベース化し、救急隊員に対する教育に反映するなど、救急活動の質の向上を図る必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	指標の値は目標値に向け着実に向上しており、目標達成に向け、引き続き事後検証結果を蓄積し教育に反映するなど救急活動の質の向上を図っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 2	ぎふ救急ネットに移行し、消防本部及び医療機関の入力作業の軽減を図るなど、効率的な運用を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 事後検証の実施にあたり、消防本部、医療機関とも多忙な中で検証を行っており、過度な負担とならないように十分配慮する必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 救急活動の質の向上を図るためには、検証結果を分析し、教育にフィードバックしていくことが肝要であり、引き続き実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	